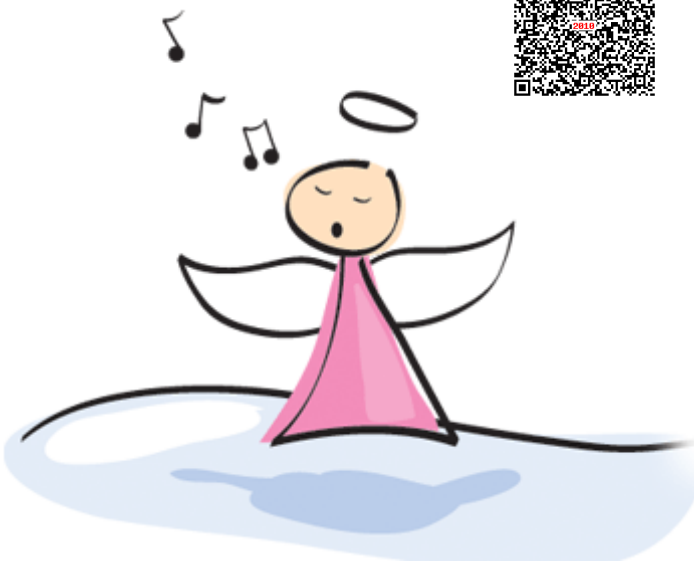
2010.01.23

Culto de Gospel House

Levanta-te, resplandece, porque já vem a tua luz,
e a glória do SENHOR vai nascendo sobre ti.
Isaías 60:1

Gospel House 2010 年間聖句
起きよ。光を放て。
あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。
イザヤ書　第 60 章 1 節



Gospel House
999-0361 山形県東置賜郡川西町玉庭 6708-5
0238-48-2757, 090-2954-4749, 090-2953-2272
e-mail: euteamo@ms5.omn.ne.jp
HP: http://gospellife.blog19.fc2.com/

「ものわかりの悪い・・・」

ガラテヤ 3:1-5

1 ああ愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に、あんなにはっきり示されたのに、だれがあなたがたを迷わせたのですか。

2 ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行なったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。

3 あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御霊で始まったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか。

4 あなたがたがあれほどのことを経験したのは、むだだったのでしょうか。万が一にもそんなことはないでしょうが。

5 とすれば、あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で奇蹟を行なわれた方は、あなたがたが律法を行なったから、そうなさったのですか。それともあなたがたが信仰をもって聞いたからですか。

ゴスペルハウス メッセージ 2010.01.17

『いのちのことば』　Ⅰヨハネ 1:1-4

[1] 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、[2]――このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。――[3] 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。[4] 私たちがこれらのことを書き送るのは、私たちの喜びが全きものとなるためです。

ヨハネは、この手紙が書かれた目的を、「私たちの喜びが全きものとなるためです。」(4節)と書いています。完全な喜びをあなたにプレゼントするために、ということです。

私たちは、うれしいことがあると喜びます。素敵なプレゼントをもらったり、おいしいものを食べたり、好きな人と巡り合えたり、仕事が成功したりしたときです。しかし、その喜びもいつかは薄れていきます。

あるいは、特別伝道集会や修養会などに出かけて、素晴らしいメッセンジャーの力強いメッセージを聞いたり、美しい讃美があったりすると、霊的な喜びがあります。また、聖書の御言葉に励まされて、喜びにあふれることもあります。しかし、いつの間にか、その喜びすらも薄れていくことがほとんどです。

いったい、ヨハネの言う完全な喜びは、どうしたら手に入るのでしょう。

この手紙が書かれたのは、イエスさまが十字架にかかってから、50年以上もたってからのことでした。ということは、イエスさまを直接見ていないキリスト者がいっぱいいたということです。ほとんどの人が、イエスさまと一度も会っていないといってもいいでしょう。つまり、今のキリスト者と同じ状況なのです。そういう人たちに、ヨハネは完全な喜びを持ってもらいたいと、完全な喜びが手に入るのだと、この手紙を書いたのです。この手紙は、他人事ではなく、私たちに書かれたといっていいのです。

ヨハネはそれを解くキーを「いのちのことば」とあらわしました。1－2節を読んでわかるように、「いのちのことば」は、イエスさまのことを指しています。ヨハネは、イエスさまを「聞いて」「目で見て」「手でさわった」のです。もちろん、十字架前のイエスさまにしたがっていたヨハネですから、当たり前のことです。しか

し、50年以上もたってから、あなたもこの交わりに入りなさいと誘っているのです。

イエスさまの死体がミイラになって残っていたわけではありません。復活の墓には、亜麻布だけが残されていたんですから。ビデオやカメラももちろんありません。
しかし、ヨハネは、いのちのことばを、イエスさまを、「聞いて」「目で見て」「手でさわりなさい」と、誘っているのです。そして完全な喜びあふれる交わりに入ってきなさいと招待しているのです。

2000年後の私たちも、同じように招待されています。イエスさまを「聞いて」「目で見て」「手でさわれる」のです。何となくイエスさまの存在を感じたとか、聖書の言葉からイエスさまの愛を感じたなとか、そんな不確かなものではありません。
あなたのその目で、イエスさまを見られるのです。
あなたのその耳で、イエスさまを聞けるのです。
あなたのその手で、イエスさまに触れられるのです。

それは確かな体験です。その時、あなたの喜びは全きものになります。もちろん、人間ですから失敗すれば落ち込んだり、悲しいことがあれば悲しんだりはします。しかし完全な喜びは、そんなことでは消えないし薄れることすらないのです。

これを聞いている人の中には、もう体験して、完全な喜びを手に入れている人もいるでしょう。また、まだ体験していない人もいるでしょう。神様はあなたにもっともふさわしいときに、この体験を用意しています。それは、明日かもしれません。いえ、今日かもしれません。

研究や学びのために、聖書を読まなくていいのです。
必死になってディボーションノート書かなくっていいのです。

期待して待ちましょう。
あなたのその目で、イエスさまを見られる日を。
あなたのその耳で、イエスさまを聞ける日を。
あなたのその手で、イエスさまに触れられる日を。
あなたの喜びが、完全になるその日を。

ハレルヤ！　主よ、感謝します。